

要 約

1. 目的

本稿では、ESD の現状を踏まえたうえで「ホールスクール・アプローチ」に注目をした。「ホールスクール・アプローチ」が学校現場で推進されない要因に枠組みの不明瞭さと導入過程の考察不足があると推察をした。そのため本稿で、「ホールスクール・アプローチ」の枠組みと導入過程の分析を行うことを目的とした。加えて神奈川県横浜市での推進に向けての示唆も行った。

2. 方法

主に文献講読を通して研究をした。学会や大会、推進機関での資料も参照した。加えて導入過程を分析する上での事例として横浜市立永田台小学校を訪問した。2017年12月6日に同校の校長に対して「半構造化インタビュー調査」を行った。導入過程に関する働きかけに対する12の質問項目を中心に対話形式で行った。

3. 結果

枠組みについてトニー・ブレア政権下で構想されたサステイナブル・スクールを参照した。中心概念を据えること、8つの扉があることや評価ツールの活用を考察した。

導入過程の分析では、横浜市立永田台小学校でのESD導入過程を整理するとともにその特徴を二点あげた。第一に教職員の共通認識の醸成である。同校では、ESDを教職員への浸透から始めた。さらには、働き方改革やイメージマップ作りなど教職員をターゲットとした実践が多くあったことが結果として得られた。

第二にESDの継続性と浸透性についての分析を行った。個人の意識改革から学校組織、地域社会へと拡大していく中で継続性をもった枠組みを採用することやもみじに例えて徐々に色づくように浸透させていくアプローチの分析を行った。

4. 考察

管理職の主導によって「ホールスクール・アプローチ」が機能すると仮定して、本稿では、事例をあげて導入過程の整理を行った。ESDの現場での理解のさせ方と長期的なアプローチが課題として本稿で分析を行った。ハードとソフトの導入によって一層の推進がされることを期待する。